



内子座



藝於遊



GCF 見学会の開催

令和8年4月11日、内子座保存修理工事現場特別見学会を実施しました。この見学会は、昨年行った「内子座保存修理ガバメントクラウドファンディング(GCF)」にてご支援いただいた方への見学会で、2回にわたって行いました。改めて、ご支援いただいた皆様に心よりお礼申し上げます。

今回の見学会では、外部においては内子座の正面をはじめ、太鼓櫓をぐるっと回り、内部においては、二重折上格天井や舞台ぶどう棚を間近に見たり、屋根裏の小屋組を見たりと、仮設足場を迷路のように昇り降りしながら、およそ1時間にわたってじっくりと内子座を見学いただきました。その後は保存小屋に行き、内子座から下ろされた瓦をはじめ、天井板に床板、そしてシャンデリアと、調査をされながら復旧を待っている材にご対面。最後は内子座楽屋に行き、工事の記録映像令和7年度分を鑑賞して終了となりました。

今回は特別見学会ということで、細部にわたって内子座を見学いただきました。いつもはこのようなご案内は難しいのですが、今後も工事の進捗状況に合わせて見学会を開催してまいりますので、ぜひ、ご来場ください。

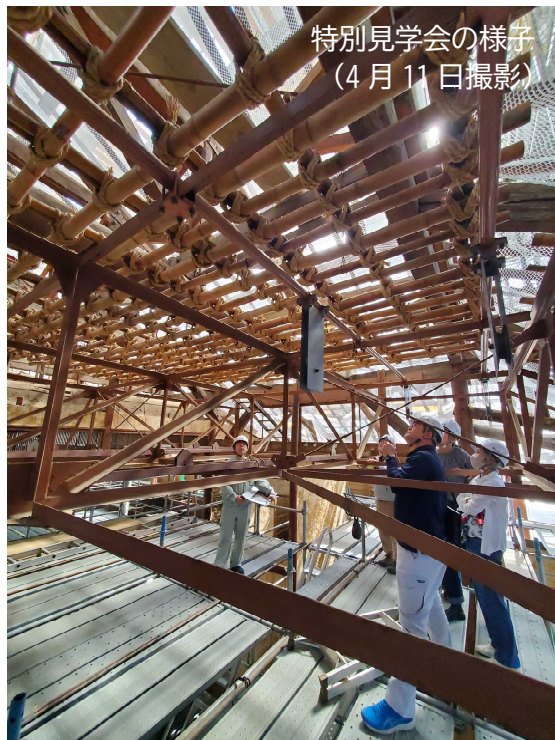
この人に聞く①

工事現場にはそれぞれのエキスパートが登場し、工事を進めてくれています。工事監理を務めている辻田さんに聞きました。

「国指定の文化財建造物において、設計・監理の仕事をしています。木造の建物を未来永劫残すためには、定期的に適切な保存修理が必要で、その際に失われていくものや情報を調査・記録・修理し、文化財的価値が減らないよう努めています。内子座は地元有志の力や思いによって建てられた芝居小屋で、創建の経緯が大切であるとともに、映画館や商工会館と、それぞれの時代に応じた使われ方をして残されてきた建物で、工事前も有効的に使い、維持されてきました。工事後も今まで以上に活用いただけるよう、しっかりとした保存修理工事をしたと考えています。」(不定期で掲載します。続きは②で!)



公益財団法人文化財建造物保存技術協会
工事監理者 辻田芳典さん



特別見学会の様子
(4月11日撮影)

▲舞台天井にあるぶどう棚の見学風景。上部の竹組は大正創建時のもので、昭和復原修理時に整備された鉄骨ぶどう棚がその下に見える。普段は暗い場所だが、屋根の解体によって明るくなり、状況がよくわかる。



◀写真上：内部の仮設足場を昇る参加者たち。緊張感のある足元に、翌日は筋肉痛になったとかならなかつたとか…。



◀写真中：間近に見る格天井。この天井は大正オリジナルのもので、縦横の板目は思った以上に美しい。



◀写真下：保存小屋にて、瓦の説明に耳を傾ける。大正と昭和の瓦では、じっくり見るとその表情の違いがわかり面白い。